農 産

品 室

交

通

事

故をなく

L ま

よう

産品室

生

室

中学、青年ロードレース出発

学

童

作

品

展

行事に対する関心、

分館関係住民の文化祭

点いたしました。

まして次の点に留意して採

審査は従来の方針により

この悪条件を乗りてえて、

(2)

各種部門の出品物や行

かがわれたのであります。

又分館には夫々地域性が

(4)

るもの

(3) 一年間

ての館員の文化祭の考え

たことは、将来の農業を近 性が年々はっきり出て参 ありますが、その地域の

分館の表彰式等に対す

まして誠に結構であると思 われました。屋外審査に

事の状況

先づその総合審査の結果か

かったのであります。

化祭の前に夫々の分館に於 て文化祭が催されましたが

本村文化祭はこの総合文

総合文化祭報告書

特性等勘案の上決定いた

催されましたので審査報 、審查報告 て、農林産品等の品評会

比し、特に進歩した度合等 等を重点事項として各方面一たしましてもそうした点か を考慮して決定いたしまし

受けられましたが、 ら一部整理されたものも見

まして蔬菜類の出品が少な の分館を除き例年に比較し 風や豪雨に見舞われ極めて して四館を選定いたしまし 以上審査の結果優秀賞と

報

とめて御報告申し上げま

審査は夫々専門的に各技

貝が厳正にしかも慎重に

それをま

飾り、その努力のあとがう 少ない中からも優秀な物を や料理や手芸品等で会場を 出品され、更に農産加工品 ながら分館の皆様は良く ましたが、その方法は 業が技術的にも経済的にも 高度に成長し、 ますが、これは本村の農林 とを目的として審査いたし と農家生活の安定を図るこ 次に特別賞の表彰であり 経済効果の高いもの 反当収益の高いもの 所得の増加

等各関係機関の協力を求め が行なわれているもの 易く消費者が要求してい ため農協等系統的に販売 しく調べ本年特に進歩向 流通機構の確立を計る て頂きたいと思います。 は出来る丈ボルドー以外の 薬剤を使用するようつとめ 除熱心のあまり却ってボル たが、今後の防除に当って と思われるものもありまし 防除には特に徹底を期して の反面みかんにおいては防 そさいにつきましては、 液の薬害をうけている 又各作物を通じ病 いと思います。そ たものが見

上をしたものをも併せ、尚一販売用のものは集団して計一が、国全体の情勢から見ましてその概要を申 和牛の品評会は別に行ない て品質の向上を図るようつ の厚いものを作り出し、更 肥培管理を充分にし、葉肉 に製茶技術を充分身につけ その都度講評を頂いており とめられた ますので省略いたします りますので、 れにも僅かながら難点があ な茶でありますが、その何 次に畜産でありますが、 色等の良好なものが立派 いと思います。 今後は茶樹

出来るだけ重復しないよう 分注意され、今後更に優秀 められたい 品の生産を計られるよう努 価値を落したものが散見さ しく報告いたしました点と れましたので、此の点は充 以上分館文化祭に於て詳

告を終ります。 等のものを益々のばし、本 村経済の確立と文化の向上 としているグループが次々 草等で大きく背伸びしよう 業の実施中であります。 と増して来て居ります

眠されまして御遺族から ありがたくいただきまし て故人の御冥福をお祈り 福瀬の新名甚三郎翁が永 千円御寄附になりました。 村社会福祉協議会に金五

昭和41年12月19日 発 行 所 宮崎県東臼杵郡

常な高値をよんで居ります

社会の情勢は

役 村

第 183 号

のは一応番外とし、地域のその上昨年度表彰されたも 常の生活に充分活かして効 家庭菜園の充実をはか けるように心掛けて いと思います

ぞろいで、生産者の技術向

出して行って居ります。 堰を切った如くに他県へ

の経費を投下

木炭は白炭黒炭共優秀の品

りの増体量を増すよう努 多頭化を図ると共に一頭

居ります。

って行く者も年々増加

その発生源となる枯枝の除 すと、みかんは機会が進む 去につとめられた 全般的に収穫が遅れている なことを拾って申し上げ につれて黒点病が多く発 するようになりますので の中から優秀なもの。 歯については各蚕期 尚作物別に見て物に必要 今後は適期収穫に努 いては各蚕期のも 燥が原因で表面、断面共に 目張りのあるものが見ら 上が伺われました。 したが、今後此の点に充

稚蚕、壮蚕に夫々適当な良 品されていましたが、要は 大切な点でありますの 分注意して頂きた しが過ぎて表面の色沢を も製炭作業の中では

ものを選び量をま

事でござ

上が見られま ばならないと思うのであり 然を作り出す意欲的な農業 と思うのであります。 てて行かなければならない 改革の方向をも併せて打立 で今一度真剣に考えなけれ そして又半面悪条件 私達はその特殊性

その他にも畜産や椎茸や煙

より何れも優秀で、

本村は今農業構造改善事

地域には夫々特殊性があ

お

知 ら せ

害をあげるようつとめら

と思います。

安全を図るは勿論、技

桑を作って与る

他方では多額 宽 粘 章 薫 郎

校の卒業者も卒業と同時に 方では端々から耕地は荒 農業をやめて他産業に替 みもなく移り変って居り 又その耕地に植林がな かど 教育功労者 村長特別賞 優良公民館 二、表彰 小野田公民館 坪谷公民館 仲深公民館

東郷中教諭佐々木千久志 教育長 塩月 儀市

黒塩 森 古 五 本 月 伊 義 川和山中佐島田田野藤 信元光 (下渡川)

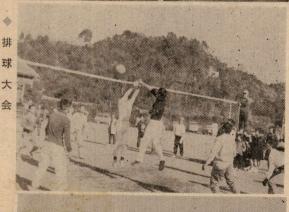
酒井今朝吉 (仲深) 正一(迫野内) 房吉(鶴野内) 房吉(鶴野内) 雅臣 (仲深) 亀市 (寺迫) 一教(福瀬)



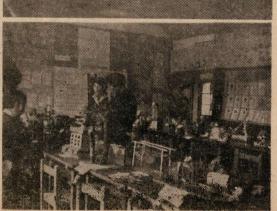














研究公開寸景

理を言ったかもしれな

更にPTAの皆さんに無

時には先生たちや児童

て発表の資料を作

公開をめざして研究

ちは夏休みもとらず、

もふさわ

しくない。

公開する日としては

大勢のお客さんを坪谷の学

場所なし

時なし予告なし

研究公開を省りみて 田平三郎

て盛会裡に終り、多大の成果をあげることができた

からやってきた社会科学 指導の研究成果を、県下 二カ年間職員とともに シトシトと雨の音がす 会長さんもみえて天をあお はもっていたが、天の一角でていたので一縷の望みは を張って受付を作ってもら いでいる。予報では晴れと 予定通り運動

私たちの努力の跡を公開す 空も晴れてきた、まず 朝の職員会で「いよ バス着と同時に受付も急 いそがしくなる、自家用 神門行一番バス、 研究をやってみて、 り会はないであろう県指定 員生活の中でめったにめぐ さてこうして数十年の

全体会を終り、どっと体にであろうから、終ってみる する程のこともなく謙虚に 時刻四時を過ぎる十五分で きている。」と参観者の る。先生たちも校長が心配 授業、分科会と会は進行す 車もふえていよいよ公開 スタートは切られた。公開 かも堂々と応対してい るだけ先生たちの苦労は大 身大きく伸びる絶好の機会 問の教育研究であり先生自 うな小規模学校であればあ 義としなければならな あくまで児童のためを第 それにしても坪谷のよ けれども先生たちは専 精神的な負担も重 これから先の教職

備をしてくれることになっ

集まって受付けなどの諸準

八時にはPTAの役員

を育ててきた。それなのに

セツセと床を磨き、

てもらおうではな

されいな学校でもみて帰

でに先生たちはもとより、

たので早目に登校。

であったろう。しかし教育 に終りはない、明日も又今 続いていく、教育とは単調 で一番安堵したのは先生た こうした先生たちの意気ご なようで複雑な営みで ちでありその家族の人たち 日を土台にして同じ作業が でもひいたら遠慮なく休 気をつけてやろう、風邪たえるな、あせるな、体に 々「図太くやろうよ、うろが心配でもあった。私は時 る、さもありなんとは思う を家内等を通じて耳にし てちょっとのことでカンシ クをおこす。 」とセーブしてきた。 私にはそれがよく判 公開がすん 行事を成功させた裏方さ

かったと思う。指定研究 やって 及充実を図る目的として 校給食法には学校給食の普 究期間で自らが学び得た点 ろなく終えたようで恥かし の多かったことを喜んでい ての研究指定を受け、去る会より「学校給食」につい 第一に学校給食について 認識を新にしたこと。 したが省りみると、他に しては何ら稗益するとこ 本校は本年度県教育委員 月二日研究結果の公開 しかし僅か六か月の研

とし、更に義務教育諸学校 、かつ国民の食生活の改 学校給食は児童及び生徒 心身の健全な発達に資 止まるものでなく、食とい 単に栄養補給ということに 四、食糧の生産、配分及び と学校給食の目標がただ 消費について正しい理解

取くむ以前の私を始め職員 育成する重要な場であるこ う日常生活を通して人間を

ばならぬこと。

三、食生活の合理化、栄養 に於ける教育の目的を実現 ニ、学校生活を豊かにし、 はかること の改善及び健康の増進を 社交性を養うこと い習慣を養うこと 正しい理解と 信ずる。

(1)学校給食の時間は楽しく 会食しながら、食事と云

づくりをし、会食すると いう自治的、自律的、直 成をめざすものであるこ て、正しい人間関係の育 う生活経験の場をとおし である。

にも研究指定校としての したが、とに

まいってしまうようです。 みときてはたいていの親が ころでしょうが、長い夏休 じかく、まあまあというと 冬休みをどのように考え、 リスマス、お正月とほんと うです。冬休みは期間もみ 頭のいたい期間でもあるよ 今年もいよいよ冬休みと かえされる親にとっては こゝでは冬休みを迎え

大きな問題であ 教育と申します りくまなければ

月と多忙な時期になります みをどのような気持ですご 思います。 年の暮れ・お正 なりますと、 ク かたく結びついていなけれの心が互いに通じ、互いにます。その根底には親と子 指導も十分効果をあげるとばどんなしつけも、どんな 願いはいろいろあると思 願いはいろいろあると思いってもらいたいという親のらないこと、こんな子にな います。 家庭で教育しなければな

からで

子どもと接する機会も

し合いをすること

と思います。親

皆さんの家庭ではこのよう

なふんいきもでき、十分話 とができないと思います。

しあいもできていると思

えるように

歩ではなかろう なることが家庭

親と子が何

楽しい家庭になりますよう ますが、この機会に尚一層

考えていただきたいと思

す。叱られた

と子が何でも気軽く話しあ

きな意義があったと思うが をもってもらう意味から 財的物的精神面で大きな負 特に会長さんはじめ役員の 協力をしていただいた 地域PTAの方々に

苦労していただき、この大 方々には終始学校とともに どういう風の吹き廻し

当学校が地域学校の社会教一意を表したいと思う 受けるものと考え重ねて謝 か、去る十二月八日第十一 校ひとりが受賞するもので 回学研教育賞を宮崎市で受 はなく、PTAの皆さんと

集まればともに問題を考え 私たちにはそのような自 信もないし大それた抱負も 育のセンター校になってほ いという言葉があったが ただ同好同憂の士が 学校環境の整備できたと ものでなく重要な教育の場 職員の誰もがこの認識を欠 であるとの認識を得たこと 第二に給食を中心とする でいた。学校給食が単に

とは、今後の本校教育に大 とながらPTAの協力、職 備その他教室設営の工夫、 置、配ぜん台、食卓布の整 換気扇等の整備、手洗場の 調理室の側溝、パン置場、 自動車道の取りつけ、 給食物資の搬入の出来る

公開を省り

3

松

田

希 農

指導に自信をもつことが出

寺小校長

田

について職員全員が共通理 解し自信を得たこと。 第三に給食指導の在り方 ラスするであろうと

善しなければならないこと 結果、でて来ている。この 童に楽しくおいしく給食さ は困難であることが研究の 正の必要のあること。 点は今後父兄と共に研究改 せるためには現在の単価で 栄養基準量を確保し、児 第四に本校の給食費は改

もにとっては、限りなく楽 しいものでありましょう

夏休みや冬休みは子ど かという基 らないと思 は、寒さもさることながら らの休みは単に学校教育の 備の意味も考えなければな 省と次の学年の準備と考え 円満な人間性を育てると考 できない学習や家庭でなけ 夏・冬休みともそれぞれの たらよ えた方がよ 字期の反省と次の学期の準 しょうか。 、長い期間かけなければ うばかりでな 春休みは一年の います。尚これ 諸行事をとお い機会と考え、 として年間の反 むしろこの方か この期間には しょう。勿論 ふんいきの中で 教育を充実さ のではないで

みなさんに支

について

福祉

次のように納めて

しあうことにより、親子のないと思います。気軽く話

方から話しあえる場とふん

いきをつくらなければなら

ころではありません。楽し

ざし、気軽く話しあえるどいる家庭の子の心は堅くと

こごとばかり

く話しあうためには、親の

お互いの考えや心を理解す

ることができ、心のむすび

上げられます。 それをまかな 給される年金

(4)給食時に養われる知識、

十五分の短時間内で行なわ は主として昼食時の僅か四

と云うことを理解し、 動に生かす実践的な教育 的資料となったり、他の経験は他の学習時の具体 食時において具体的な活 学習活動で得た知識を給 栄養についての知

ら、周到な準備が必要となねばならないのであるか 国民年金保険料の引上げ

うした内容をもつ給食指導

(3)食事に関する習慣形成、

差額保険料を納付して下さい。 額が、大幅に増額されたのに伴今度の法改正により、みなさん う財源である保険料の方も、 昭和四十二年の一月分から、 35才~59才まで 20才~34まで 月 200円

保険料を一定期間前納されて 月 250円

家庭で教えなければならな

こともわかり、すなおな

ます。そこからおのづから つきも一層強くなると思い

冬休みのくらし方に る方は、その

わが家のしきたりなど、大 お手伝いしたことや正月の正月を迎えるのにいろいろ やりたいものです。楽しいてよいものは子どもと共に います。子どもに参加させにしなけれでならないと思 ないでしょうか。 しきたりや準備なども大事 年の暮やお正月の家庭の

明るい性格の子どもはとう

良い人間性を培うものと思す話題などなごやかに話し 良化などの問題もでてくる す年末から正月にかけての 忘れさられたとき少年の不親や家庭が忘れられ郷土が 思います。子どもの頭から を愛する心もこうしたとこ や自分を育ててくれた郷土 幼い頃のことや子どもの出 から聞いたことや、父母の ろってする中で父母が而親 のではなかろうかと思いま ろからくるのではないかと となります。家庭をなつか れることのでさない思い出 いろいろなしごとを親子そ 人になってもなつかしい忘 しみ、家庭を大事にする心

火の元は 人に頼むな まかせるな

1 2 3 4 授業参観 全 体 研坪小資料室 究 (古い農具) (先生とともに) どもを守るというねら 年間の教育をより効果的に 冬休み・春休みによりくぎ ありましょう 習をふりかえり、次の期間 ぎってその期間の行動や学 せるよりも、ある時期でく をずるずると続けて勉強さ あろうと思います の教育をより充実させ、 本的なことがらにつ 一学期・三学期と夏休み・ 夏休みは夏の暑さ れていますのは、一年間 ようというねらい ようにすごさせるよう